

氏名 西 村 公 一

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1654 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和61年 6 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 超音波断層法によるび慢性肝疾患の診断

第 1 編：肝表面の観察における腹腔鏡所見と超音波像の対比

第 2 編：超音波によるび慢性肝疾患の診断

一 腹腔鏡像及び生検組織像と肝内門脈エコー像の対比一

論 文 審 査 委 員 教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 青野 要

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

簡便かつ無侵襲な超音波断層検査によるび慢性肝疾患の診断法として、肝表面エコー像と、肝内門脈エコー像の変化に着目し、腹腔鏡所見及び肝生検組織所見と対比しながら検討した。

肝表面エコー像は 5 段階（pattern I～V）に分類した。腹腔鏡で平滑な肝表面とされた症例の大部分は、細い直線状エコー像（pattern I）を示した。肝表面区域化例では、不連続線状エコー像（pattern II）が中心、結節状の表面を呈する症例では、幅広い線状エコー像（pattern III）を示した。有腹水時や結節径の大きい症例では、2 段差破線状エコー像（pattern IV）、波状エコー像（pattern V）を呈する症例が多かった。

また、肝内門脈エコー像は 3 群に分類し、門脈壁及び内腔の明瞭な（－）群、門脈壁のボケ像はあるも内腔の比較的明瞭な（＋）群、門脈壁のボケが強く内腔が潰れて不明瞭な（＝）群とした。その結果、慢性肝炎から肝硬変へと結節形成が完成されるに従って、（－）群から（＋）、（＝）群へと変化していく傾向がみられた。

以上 2 つの所見は慢性肝疾患、特に肝硬変の超音波診断に極めて重要な所見である事が証明された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は超音波断層法によるび慢性肝疾患の診断について肝表面エコー像を不連続線状幅広い線状或は波状などの像により 5 段階に分類し、又肝内門脈エコー像を門脈壁とか内

腔の変化により3群に分類して検討したところ、腹腔鏡所見とか生検組織像などとの対比において慢性肝疾患，特に肝硬変の超音波診断に極めて重要な所見を得ており，価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。